第2節 大きなムダより小さなムダに目を配れ

「これぐらいはいいか」が大きなムダを招く

大きなムダというのは誰でも気にするものですが、小さなムダというのは「このくらいはいいか」と案外気に留めないものです。ある会社を訪ねたところ、床がずいぶん油で汚れているのが気になりました。なぜこんなに汚れているのかと聞くと、いくつかの機械から油が漏れており、それを放っておいたために、床や壁までが油でべとつくようになってしまったと言います。

たしかに1日の油漏れはわずかのものかもしれません。しかし、その量を概算でつかみ、「1日いくら、1ヵ月いくら、1年でいくら」と計算すれば、それなりの量と金額になるはずです。それだけではなくこれだけ油汚れがひどければ、働いている社員も嫌でしょうし、油で滑るなど安全面から考えても放置しておけません。機械によっては不良や故障を引き起こす原因にもなります。

機械の整備点検にあたり、わずかの油漏れでも「これはムダだ」と判断して、すぐに手を打てばこんなことにはならなかったはずですが、量がわずかだから「これぐらいはいいか」と放っておいたためにひどいことになったのです。その会社では、機械の油漏れをすべて修理し、床や壁をきれいにするために何日も清掃を行わなければなりませんでした。

小さな問題も対処を怠ると大問題に発展する

トヨタ式ではたとえ1個の不良品が出ても、ラインを停止して、なぜ不良が出たのかという原因を徹底的に調べて、二度と同じ不良品が出ないように改善することを習慣にしています。なぜかというと、たとえ1個でも不良品のムダを放っておくと、やがて同じような不良品が多発したり、もっと大きな不良品が出る恐れがあるからです。ところが、中には「1個ぐらいあとで手直しすればいい」として不良品のムダを放置する会社があります。これでは不良品が出

た原因を追究することもできませんし、せっかくのムダ取りのチャンスを逃すことにもなります。

ムダはできるだけ小さなうちにムダ取りをするのがいいのです。問題は小さなうち、早い段階なら1人、あるいは数人で対処できますが、放っておくと大問題に発展し、問題解決のために大変な労力を必要とします。同様にムダも小さなムダを見つけたとき、「このぐらいはいいか」と軽く考えるのではなく、小さなうちに摘み取ること、改善することが大切なのです。

小さなムダのマンネリ化に気をつけろ

たとえば、一時的に機械が止まるなどのチョコ停は、ちょっと手を加えると短時間で簡単に復帰するものも多く、いつの間にかマンネリ化して、誰も抜本的な改善を行わない傾向にあります。しかし、チョコ停も積み重なれば大きなムダになります。チョコ停のような小さなムダを根気よく退治することが、モノづくりの質を上げていくように、ムダ取りは身の周りの小さなムダに目を凝らすことが大切です。小さなムダ取りの積み重ねが大きなムダを防ぎ、大きな効果を生むのです。小さなムダのマンネリ化に気をつけてください。

Point
❶ 小さなムダも「これぐらいは」と見逃してはいけない。
❷ 小さなムダも放っておくと大きなムダにつながる。
❸ 小さなムダ取りの積み重ねが大きな効果を生む。